



創立151年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和6年 6月号

児童数381名 文責 澤村幸夫



つばめの巣



春から夏にかけて南方（東南アジア）から繁殖のためにやってくる渡り鳥「つばめ」の巣が、学校の非常階段の裏側にありました。左の写真にあるように親鳥が卵を温めています。人のいる民家の軒下に巣を作るのは、天敵（タカやヘビやカラスなど）に襲われる危険が少なくなるからです。

つばめの巣は、泥と枯れ草などの植物を混ぜ合わせてつくりますが、泥を材料に巣づくりをする鳥はとても珍しいと言われています。昔から害虫を食べて農作物を守ってくれることから、たいへん縁起の良い鳥として、大切にされてきました。和邇小学校の軒下も安心・安全な場所としてつばめに選ばれ、子育てをしているのだと思います。産卵から孵化までは2週間ほど、孵化から巣立ちまでは3週間ほどで、ヒナは親鳥からたくさんエサをもらって大きくなります。巣立ったつばめは集団で過ごし、親鳥から飛び方やエサの捕り方を教わります。9～10月ごろに、つばめたちは、南方へと飛び立ちます。子育ては、生き物にとって（人間にとっても）、重要でとてもたいへんなことですね。

さて、今、学校教育で目指す重要な目標が、私自身の幼少の頃や保護者世代が過ごした小学校の頃と大きく変わっています。今は「主体的・対話的で深い学び」という学習が求められています。なぜかという、予測困難な未来をたくましく幸せに生きていくために身につけてほしい力があるからです。まずは、子ども自らが主体的に考えること、周囲の仲間と議論する対話的な学び、そして、自分を見つめ、振り返り、学びを深めていくことが大切とされています。つまり、授業のスタイルが大きく変わっています。

特に大切にしたいことは、自分の考えを持つこと、そして仲間と話し合いながら自分の考えを深めていくことです。現在、各教科では、知識の伝達ではなく、自ら調べ、自分のこととして考える授業、教材にある問題を発見し解決していく授業、体験的な学習から気づき、考え、発信する授業を行っています。

実は、この主体的・対話的で深い学びという学習を支える力が、今注目されている「メタ認知」です。メタ認知とは、心理学で使われる言葉で「自分を客観的にみる力」のことです。子どもが自分を客観視できるようになり、「もう一人の自分」を意識すると、主体的に学習に向かう態度が身につきます。「どのように覚えると覚えやすいか」「自分にとって何が一番問題となっているのか」「問題を解決する方法を予測して、解決するための方法を計画する」などが「メタ認知」です。

メタ認知は小学校高学年から中学生にかけて急速に発達していきます。今まで自分の好きなことを好きなように話していた子が「自分の話があまり相手に理解されていないようだ」と気づき、説明の仕方を変えてみるといった行動が見られるようになります。

主体的に自分を見つめ、粘り強く考え、仲間や先生と話し合いながら、深い学びが生まれる魅力的な授業の実践を積み上げていきたいと思います。



学校のミッキーマウスプラティ
本文との関連はありません。

5/10 1年生を迎える会

5月10日(金)に「1年生を迎える会」が開催されました。児童会が企画し、入学した1年生を温かく迎え、学校生活を少しでも楽しんでもらえるように工夫を凝らしました。全校児童が一堂に会した楽しいひとときでした。短い動画にまとめま

したので、左のQRコードからご覧ください。

1年生を迎える会

紙面配布のみ表示



期間限定 6/1~6/30



4年生 びわ湖ホールへ 5/29

4年生は、5月29日に校外学習に出かけました。びわ湖ホールで本物のオーケストラの演奏を

聴きました。その後、皇子山公園でお弁当を食べました。良い天候に恵まれ、バス遠足として楽しい1日となりました。



5年生 和邇川下流・中流探検

5年生は和邇川について調べます。5月17日には下流へ、24日には中流に出かけ、生き物調べをしました。現地での実体験を伴う学習を大切にしています。



1・2年生 和邇公園へ 5/23

1・2年生は、新緑の和邇公園へ校外学習に出かけました。2年生が1年生をリードして、春探

しをしたり、学校にはない遊具で遊んだりしました。良い天気で、広場で食べるお弁当がとてもおいしかったです。



6年生 和邇図書館見学 5/23

6年生は近くの和邇図書館に出向き、図書館の蔵書や借りる方法、図書館の魅力について説明を聞くことができました。こんな近くに大きな図

書館がありますので、小学生のみなさんは、どしどし和邇図書館を利用して、多くの本に出会ってほしいです。



3年生 和邇探検 東西南北

3年生は、和邇地域を東西南北の4つの方面に分け、各方面を探検して、気づいたことや特徴をまとめていきます。和邇は歴史的な建造物や自然豊かなエリアが豊富で、さまざまなおすすめスポットがありました。



和邇小学校の
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。また、「校長室より」を開設しましたので、ご覧ください。

新シリーズ「未来への扉」

第3弾 「失敗すること」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人（親や教師）はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。



学校のカクレクマノミ
本文との関連はありません。

第3弾は「失敗すること」です。「学校では何を教える必要がありますか？」と聞かれたら、私は「教える」ではなく「経験させる必要があります」と答えます。その経験は「成功」の経験ではなく「失敗」の経験です。失敗しなければ成長はしません。失敗して初めて「次はどうしたらいいのだろうか？」と考えますし、「わからないところを教えてください」と自分事としてアドバイスを求めるようになります。

今の学校生活では、自由に行動する場面よりルールやマナーが優先され、「このようにする」ということが前もって決まっていることが多いです。しかし、本当に子どもたちの目が輝き、わくわくし、失敗する経験を積ませるためには、まずもって、子どもたちに自由にやらせていくことが大切です。ただ自由にさせるだけではなく、失敗を自覚させること、失敗したときには大人が声をかけることです。「次はこうしたら？」や「こういうのは？」などと声をかけて、それを元にして子どもたちがまた考える、自己決定させる、この繰り返しが大切だと思います。学校は本来「失敗するための場所」なのです。

昨年度、北海道からはるる来校いただいた植松努さんは、自らの経験から「失敗すること」について子どもたちに次のように訴えてくださいました。

- ・失敗はデータ、のりこえたら「ちから」になる
- ・失敗にばつをあたえてはいけない
- ・失敗を自分のせいにはしてはいけない
- ・失敗はなんでだろう？だったらこうしてみたら？で「ちから」になる



学校では、子どもたちの選択肢を狭めていくことを改める必要があります。探検やインタビューなど、事前の準備をすればするほど、失敗がなくなります。あいさつの仕方やお礼の言い方、質問の中身など、事前にすべて考えて練習してから当日を迎えます。つまり台本どおりに進めることが、良いとなります。これでは、子どもたちにとって発見の少ない、つまらないものになってしまいます。子どもたちは、ゼロからの出発だからこそわくわくするのです。何が起こるか分からない、失敗するかもしれない、そういった積み重ねで子どもたちは大きく成長するものだと考えます。学校がすべきことは、子どもたちの安全についての配慮です。子どもの力を信じて、子どもたちの選択肢を広げていきたいと思います。



学校のアクアテラリウム
本文との関連はありません。

子どもが自分で考えて行動すると、多くの失敗をします。上述した探検やインタビューでも、結果的に成果をあげられない場合もあると思います。教員は大人なので、その失敗が予想できます。だから先回りして「失敗しない方法」を教えてしまう。そうすると、見かけ上は「成功した体験」になりますが、本当の成功体験ではありません。手痛い失敗を経験して自分で考え、再び挑戦してようやくつかみ取るのが本当の成功体験だと思います。知的好奇心をくすぐる魅力的な授業を目指していきます。

各ご家庭でも、「失敗すること」について話題にいただけると幸いです。